黎　明

仙台市立錦ヶ丘中学校
第一学年　　No. 32
2021. 1. 20
文責　千葉佐和子

防災教育を振り返って②

前号に引き続き下記に，何人かの感想をご紹介いたします。

この半年間で自分だけでなく，周りの人たちも災害や防災に対しての感じ方や考え方がかわったと思う。半年間の授業で災害に備える大切さや常に災害に対する意識をしていないといけないことを学んだ。今までのぼくは，震災の恐ろしさ，防災とは何かをざっくりとしか知らなかった。しかし，今では，防災は物を準備するという事だけでなく，「もしも地震が来たら」「もしも台風が来たら」「もしも津波が来たら」という意識を持っていること。つまり「心の準備」も防災であるということを知っている。そして実際の生活でも意識している。また，授業によって災害（地震など）についての知識も増えた。心の準備していても，最低限の知識がないと，災害に備えることができないからだと思う。もしも，発表会をこの学習を行う前にしていたら，「このようなことはもう起きてほしくないです」みたいな終わりになっていたと思う。しかし，ぼくたちは，防災の学習を受けたため，発表の内容が，結果的にはみんな震災に対して前向きなこと，主に復興に関しての意見を述べるようになった。のだと思う。また，現地へ行って調べてまとめて発表し合うことも防災の一つであると思う。

初めの頃は「命って何？」「生きるって何だろう？」と考えていました。イメージはできるけれどはっきりと言い表せなかったのですが，この半年間の学習を経て一つの答えにたどり着きました。命とは，かけがえのないもので尊くて自分にしかない「心の灯火」のこと。生きるとは，数々の人々に支えられて，時に自分も誰かを助けられるくらい強くなっていくことだと。もちろんこれは，私個人の考えなので他の人にとっては当てはまらないかもしれません。しかし，今までの学習を通し，私たちは「命の大切さ」について学んできました。命が大切なものという認識は皆同じはずです。そんな中，私の印象に残った出来事は東日本大震災や女川・雄勝・南三陸などの諸地域に起きた災害についてです。事前の備えをしていても，いち早く逃げたとしても震災は命を簡単に奪えてしまいます。「命の大切さ」の意味を理解している今だからこそ，災害への備えや対処法についてしっかり考慮した方が良いことが分かりました。震災の被害を被災地訪問で実際に見て，いつ起こるか分からない震災へ向け多くの人の命を救えるようになりたいと思いました。ですが，最初の授業で，他人を助けるためには自助をしっかりとできていないと危険だと学習していたので，自分の命も守り他人の命も救えるように対処や備えを怠らないようにしていきたいと思いました。また，そのような心構えを持つために，校長先生を参考にしたいと思いました。被災した子どもたちのために数ある支援を行い，未来を明るくさせた校長先生は憧れの対象です。支援は一人では成り立ちません。たくさんの人と支え合い関わり合い助け合って，人々を救うため笑顔にするため，今自分にできることを深く考えていきたいと思いました。